

【テーマ4 研修の単位化・専修免許状取得プログラムの開発】 広島大学

「特別支援教育特別専攻科における対面・非対面形式及びラーニングポイント制によるハイブリッドな特別支援学校教諭免許状取得プログラム開発に向けたニーズ調査及び実現可能性の検討」

調査の概要

◆課題認識

- ・特別支援学校教諭免許状保有率が伸び悩む
- ・特別支援教育のミドルリーダー育成不足
- ・本学では現職教員派遣が減少傾向

◆調査研究の目的

- ・効果的な特別支援学校教諭免許状の取得方法を明らかにすること
- ・研修のラーニングポイント制・授業のオンライン化に必要な条件を明らかにすること

◆調査研究の方法

- ・聞き取り調査：授業のオンライン化に求められる条件整備、ラーニングポイント制導入に求められること等
- ・アンケート調査：ラーニングポイント化可能な研修の種類、特別支援教育特別専攻科での学び・望ましい授業形態等

◆調査研究校

- ・全国都道府県及び政令指定都市教育委員会36/67カ所
- ・広島大学特別支援教育特別専攻科生21/24名

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①履修証明制度等の活用による特別支援学校教諭専修等免許状取得のラーニングポイントとするための検討
 - ・履修証明プログラム終了時に大学の単位と結びつけ、ラーニングポイント化が可能
 - ・しかし、この単位を教職課程認定科目としてどう位置づけるかの情報が得られなかった
- ②本学特別支援教育特別専攻科の開設授業の一部を通学課程としての要件を満たす範囲でオンライン・オンデマンド化するための検討結果
 - ・本学特別支援教育特別専攻科全22科目中8科目がオンライン・オンデマンドのみで授業実施が可能、3科目が対面による土日夜間開講が可能、4科目が対面と遠隔のハイブリッド型による授業実施が可能、7科目は対面で平日開講による授業実施が望ましいが、うち4科目は選択必修または選択科目であり、オンラインで全30単位の取得が可能
- ③効果的な特別支援学校教諭免許状取得方法の検討結果
 - ・教育委員会が昨年度、特別支援教育に携わる現職教員を大学院等へ派遣した人数は、0名が最も多く（26.5%）、続いて1名（23.5%）、2名（17.6%）、3名（17.6%）
 - ・派遣先の大学院等が工夫している事項は、教職大学院化が最も多く（38.2%）、オンライン・オンデマンド開講（17.6%）、夜間・土日開講（11.8%）
 - ・教育委員会・センター等の連携して授業科目を設定し、研修で受講した内容を、受講者が大学の授業へ持ち帰り、ディスカッションしながら学びを深化させ、最終的に単位を付与

◆成果

- ・全授業科目オンラインのみで修了可能とすることができることが分かった。
- ・教育委員会と連携した履修証明プログラムを立ち上げ、ラーニングポイント化につなげることが重要であることが分かった。

今後の課題

◆本調査研究の成果を基に、効果的な専修免許状取得の道を拓く

- ・特別支援教育特別専攻科の授業科目のオンライン・オンデマンド化の検討
- ・教育委員会と連携したラーニングポイント制導入の実現可能性の検討
- ・本学で実施する特別支援教育に係る履修証明プログラムの有効性の検討

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する。